

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101397		
法人名	医療法人 松岡会		
事業所名	佐古グループホーム		
所在地	徳島市佐古六番町12番11号		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、笑顔にあふれ明るい雰囲気の中で、安心した生活が送れるよう職員一同心がけ支援しています。また家族様とのつながりを大切に、いつでも気軽に来所できるよう心掛けています。利用者様個人のレベルに応じたリハビリ体操を実施し残存機能の維持をはかったり、レクリエーション・行事・外出支援等を行い季節感を感じられ楽しく過ごして頂けるよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、毎日のリハビリ体操をはじめ、筋力トレーニングを取り入れ、利用者一人ひとりが残存機能を維持し、その人らしく生活できるよう、全職員で取り組んでいる。理念である「目配り・気配り・心配り・地域の一員として」を心掛け、日ごろの支援を行っている。地域密着型サービス事業所として、町内会へ加入し、日常の散歩で、近隣との関係性の構築にも努めている。地域との災害時の協力体制も構築している。毎日、協力医療機関の医師による往診や週2回、看護師の訪問がある。緊急時や24時間の対応可能な体制があることが、利用者や家族の安心に繋がっている。事業所は、12月末には別の場所に移転することになっており、新しい地域での交流や協力体制の構築についても検討中である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年11月5日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1階	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で共有をはかり、意識付けをし理念の実践に日々と取り組んでいる。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を掲げている。理念は、事業所内の目につく所に掲示し、職員間での意識付けを図っている。職員は、理念に立ち返りながら、日ごろの支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭への作品出品、幼稚園の慰問・ボランティアの方に来ていただいたりし、地元の人々と交流することに努めている。町内会に加入している。	事業所は、地域の一員として町内会に加入し、地域の行事に参加している。ボランティアや保育所の来訪を受け入れるなど、交流に努めている。感染症(コロナ等)の流行下においても、近隣住民から野菜等の差し入れを受け入れるなど、交流を継続している。12月末には事業所が移転となるため、新しい地域での交流についても検討中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて出席下さる民生委員・家族様包括支援センターの職員等に認知症に対する理解を深めてもらっており意見交換をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所・活動状況報告等情報を提供し話し合いを行う中で、意見交換を行いサービス向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の取り組み状況やヒヤリハット事例を報告し、意見交換を行っている。出された意見は、議事録で共有し、月1回のミーティングで職員間で話しあうなどして、サービスの質の向上に活かしている。現在、感染症の流行下における会議の開催方法について検討中である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月市役所に出向き実績報告書を担当者の方に直に提出しており、相談等意見交換できる関係を築いている。	管理者は、月1回、市担当窓口に出向き、事業所の現況報告や困難事例の相談等を行っている。地域包括支援センターとも情報交換を行い、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束の内容を把握し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では、身体拘束に関するマニュアルを作成している。月1回、身体拘束に関する勉強会を開催し、職員の理解を深めている。日中は、玄関を解錠し、見守りにより、利用者の自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることがないように、職員間同士のコミュニケーションを図り防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおられるので理解し共通認識となるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際には、利用者や家族に十分に説明を行い理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム玄関に意見箱を設置したり、面会時を通じて家族様からの意見要望を取り入れ、運営に活かすようにしている。	事業所では、家族等の来訪時に意見や要望を聞いている。感染症の流行下においても、状況に応じて短時間の面会を行うなど、意見を聞く機会を設けている。また、毎月の事業所だよりに加え、職員から家族等に、利用者の状況について伝え、意見を引き出している。引き出した意見は、ミーティング等で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングや責任者会議を開き意見を交換し運営に反映させている。また内容に応じて代表者に進言し活かされるように努めている。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員の意見や要望を聞いている。月1回の職員会議でも職員の意見を聞く機会を設けている。出された意見は、内容に応じて、代表者に伝え、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意見や不満を聞きいれてくれており、常に話し合いの機会が持てる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験・段階に応じてアドバイスをおこなっている。また研修に参加しやすい環境づくりをしサービスの質の向上につとめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等の活動を通じて他の施設の方々と交流を深めたり情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく早く安心して過ごして頂けるように、コミュニケーションを密に摂りじっくりと耳を傾け信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族様から困っている事・不安なことは親身になって聞き入れ、常に電話や面会時に話し合いや相談をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いや説明の中で、必要としている事を見極め支援・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から昔の習わしやいろんな知識をおしえていただいたり、一緒に笑い支え合う関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族様の双方の協力や信頼関係によってより良い支援が出来るように、面会時には気軽に意見交換を行い共に支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊等希望に添える支援を行っている。また知人の面会者も頻繁に来られており開けた環境作りに努めている。	事業所では、感染症の流行下においても電話のやりとりを支援したり、希望に応じて馴染みの場所までドライブに行ったりして、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。また、月1回、馴染みの理・美容院の来訪を受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の役割・居場所づくりを心掛け、利用者同士が支えあえる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院を伴い退所になった場合、面会や連絡を欠かさないようにし状態の経過を把握し、家族様との関係を切らないよう相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でコミュニケーションを密にとり、表情の変化を見落とさず一人ひとりの希望・意向の把握に努めている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、食べたいものや行きたい所など、希望や意向の把握に努めている。意志の表出が困難な利用者については、仕草や表情の変化から本人本位に検討している。把握した希望や意向は、全職員で共有し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	知りえた個人個人の生活歴を大切に、日常の関わりの中で安心して暮らせる馴染みの信頼関係の構築に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態や生活リズムに合わせた支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスにて意見を出し合い反映した介護計画を作成している。また家族様からの意見・要望を聞き介護計画に反映している。	事業所では、本人や家族等の希望を聞き、身体状況に応じて、医師や看護師、リハビリテーション関係者、薬剤師等の意見を得て、介護計画を作成している。職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の身体状況や気づいたことなどを記録し、モニタリングを行っている。3か月に1回の見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施を個別記録・メモノートに記入し情報共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を取っており、状況に応じて訪問診療を行い支援している。他施設に移られた知人との関係性を保持出来るように外出支援を行ったりもしている。		

自己	外部	項目	1階		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて出席下さる民生委員・家族様包括支援センターの職員等に認知症に対する理解を深めてもらっており意見交換をしている。また町内会にも加入しており行事に参加したり、2か月に1回訪問の散髪に来てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設であるクリニックの医師・看護師とは密に連携をとっており対応している。本人や家族様の希望を尊重し他科受診・訪問歯科等自由に個別の受診体制を確保している。	事業所では、利用者や家族等の希望する医療機関での受診を支援している。毎日、協力医療機関の医師の往診や週2回、訪問看護の来訪があり、24時間対応可能な体制を整備している。月2回、歯科の訪問診療もある。専門医の受診は、家族等の協力を得て支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っているクリニックより週に2階訪問看護で来所しているため、利用者の状態報告を行い相談し適切なケアが出来るように支援している。また状態に応じて連絡・相談が出来るように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には職員が様子を見に行き病院関係者と情報交換や相談に努め、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にアンケートをとり看取りの方針を説明している。また状態の変化がある度に医師・看護師とも話し合い家族様に報告・説明を行い、今後の状況変化に応じて対応支援が出来るようにしている。	契約時の段階で、本人や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、意向を確認し、方針を共有している。新人研修を行い、夜間対応などで職員が不安を感じることはないよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生及び緊急時マニュアルにそって慌てず職員が対応できるようにしている。また24時間院長・看護師に連絡がとれる状態になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難経路・消火器の場所を把握できるように正面ドアに掲載し、常に目につくようにしている。	年2回、日中と夜間の火災や洪水、地震等を想定した避難訓練を、利用者とともに取り組んでいる。避難経路や緊急連絡網の確認も行っている。消防署や地域住民との連携体制を整備している。食料や災害時用品等の備蓄も整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1階		実践状況	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個人個人の自尊心を尊重するように声掛けをおこなっている。	職員は、利用者一人ひとりの性格や習慣を理解し、人格を尊重した支援に努めている。トイレ誘導や排泄の失敗時には、周りに気づかれることのないよう、さりげない声かけを心がけている。職員会議でも話しあい、意識を共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で一人一人の利用者が自分で決定できやすいように声掛け・支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに沿って見守りながら生活を送り、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者が自由にゆったりと好みの装いが出来るように支援している。訪問美容のカットや本人の希望により化粧品を使用している方もいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理は運営上行ってないが、おしぼりをまいてもらったり、食後にお盆拭きをして頂いたり共に手助けしながら出来る環境にしている。	事業所では、おかずの盛り付けや炊飯を行っている。近隣住民からの野菜等の差し入れを利用して、一品加えることもある。利用者の希望に応じて調理したり、行事食を取り入れたりして、食事を楽しむことができるように工夫している。また、おやつづくりを一緒に行うなど、利用者ができることで調理に参加できるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量のチェックをし、職員が情報を共有している。また個人の状態に応じてスプーンの使用・刻み・ミキサー食と調理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯みがきの声掛け・口腔ケアを行っています。希望者には訪問歯科医に来てもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体状態に合わせて出来るだけトイレでの排泄を促し支援している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の残存能力を活かして、排泄の自立に向けた支援に努めている。車いすを利用する方も希望に応じて、夜間のトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度の運動や歩行訓練を日々行い自然排便を促している。水分摂取量の確保・腹部のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決まっているが、希望がある利用者に対していつでも入浴できるようにしている。また足浴も毎日行っている。入浴拒否をされる方については、声掛けの工夫をしたり機嫌やタイミングを見計らい対応している。	事業所では、少なくとも週3回の入浴ができるように支援している。入浴を拒む利用者には、声かけを工夫したり、時間帯を変えたりして、無理強いすることなく入浴できるよう工夫している。シャワー浴や二人介助、同性介助等、利用者の心身状況や要望に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムづくりをし、ゆったりと休息・安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース毎に整理し、職員常に内容を把握できるようにしている。服薬確認・介助に気を配り症状の変化が見られた時には速やかに医師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にあった趣味・楽しみ・役割を見つけている。また張りのある生活が送れ、必要とされる喜びが感じられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出支援を行っている。初詣・ビッグひな祭り・花見・バラ園見学・阿波踊り・菊人形見物等。日々要望に応じて散歩・ドライブを行っている。	事業所では、感染症の流行下においても、日常的に事業所周辺を散歩している。人出の多さや状況を伺いつつ、ドライブに出かけたり、神社にお参りにいったりして、外気に触れる機会を設けている。	

自己	外部	項目	1階	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
				次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理しているが、本人所持の場合には家族様と相談している。預り金の使用状況を毎月出納帳のコピーを家族様に送っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じ柔軟に対応している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や廊下に季節感のある飾り・写真・作品を掲示し明るく楽しくなる雰囲気づくりをしている。	共用空間は、日当たりがよく、明るい。壁面には、利用者と一緒に作成した作品の掲示や季節の飾り付けを行い、季節感や温かみがある。感染症の流行下においては、定期的な換気を心がけている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを見たり、ソファで利用者同士でゆったりと話し談笑している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるように、寝具・家具等慣れ親しんだ物を自由に持ち込んで頂けるよう勧めている。	居室には、利用者の馴染みの家具や調度品、家族の写真、趣味の品等、好きなものを持ち込んでもらっている。安全面に配慮して、家具の配置を行い、利用者が居心地よく、安心して過ごすことのできる居室づくりを行っている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂場等手すりを取り付けバリアフリーはもとより、各部屋に写真入りの表札・トイレの表示を分かりやすく掲示し、自身で分かりやすくしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で共有をはかり、意識付けをし理念の実践に日々とりくんでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭への作品出品、幼稚園の慰問・ボランティアの方に来ていただいたりし、地元の人々と交流することに努めている。町内会に加入している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて出席下さる民生委員・家族様包括支援センターの職員等に認知症に対する理解を深めてもらっており意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所・活動状況報告等情報を提供し話し合いを行う中で、意見交換を行いサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月市役所に出向き実績報告書を担当者の方に直に提出しており、相談等意見交換できる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束の内容を把握し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることが無いように、職員間同士のコミュニケーションを図り防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおられるので理解し共通認識となるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際には、利用者や家族に十分に説明を行い理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム玄関に意見箱を設置したり、面会時を通じて家族様からの意見要望を取り入れ、運営に活かすようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングや責任者会議を開き意見を交換し運営に反映させている。また内容に応じて代表者に進言し活かされるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意見や不満を聞きいれてくれており、常に話し合いの機会が持てる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験・段階に応じてアドバイスをおこなっている。また研修に参加しやすい環境づくりをしサービスの質の向上につとめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等の活動を通じて他の施設の方々と交流を深めたり情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく早く安心して過ごして頂けるように、コミュニケーションを密に摂りじっくりと耳を傾け信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時より家族様から困っている事・不安なことは親身になって聞き入れ、常に電話や面会時に話し合いや相談をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いや説明の中で、必要としている事を見極め支援・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から昔の習わしやいろんな知識をおしえていただいたり、一緒に笑い支え合う関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族様の双方の協力や信頼関係によってより良い支援が出来るように、面会時には気軽に意見交換を行い共に支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊等希望に添える支援を行っている。また知人の面会者も頻繁に来られており開けた環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の役割・居場所づくりを心掛け、利用者同士が支えあえる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院を伴い退所になった場合、面会や連絡を欠かさないようにし状態の経過を把握し、家族様との関係を切らないよう相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でコミュニケーションを密にとり、表情の変化を見落とさず一人ひとりの希望・意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	知りえた個人個人の生活歴を大切に、日常の関わりの中で安心して暮らせる馴染みの信頼関係の構築に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態や生活リズムに合わせた支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスにて意見を出し合い反映した介護計画を作成している。また家族様からの意見・要望を聞き介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施を個別記録・メモノートに記入し情報共有を行い介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を取っており、状況に応じて訪問診療を行い支援している。他施設に移られた知人との関係性を保持出来るように外出支援を行ったりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて出席下さる民生委員・家族様包括支援センターの職員等に認知症に対する理解を深めてもらっており意見交換をしている。また町内会にも加入しており行事に参加したり、2か月に1回訪問の散髪に来てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設であるクリニックの医師・看護師とは密に連携をとっており対応している。本人や家族様の希望を尊重し他科受診・訪問歯科等自由に個別の受診体制を確保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っているクリニックより週に2階訪問看護で来所しているため、利用者の状態報告を行い相談し適切なケアが出来るように支援している。また状態に応じて連絡・相談が出来るように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には職員が様子を見に行き病院関係者と情報交換や相談に努め、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にアンケートをとり看取りの方針を説明している。また状態の変化がある度に医師・看護師とも話し合い家族様に報告・説明を行い、今後の状況変化に応じて対応支援が出来るようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生及び緊急時マニュアルにそって慌てず職員が対応できるようにしている。また24時間院長・看護師に連絡がとれる状態になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難経路・消火器の場所を把握できるように正面ドアに掲載し、常に目につくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個人個人の自尊心を尊重するように声掛けをおこなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で一人一人の利用者が自分で決定できやすいように声掛け・支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに沿って見守りながら生活を送り、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者が自由にゆったりと好みの装いが出来るように支援している。訪問美容のカットや本人の希望により化粧品を使用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理は運営上行っていないが、おしぼりをまいてもらったり、食後にお盆拭きをして頂いたり共に手助けしながら出来る環境にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量のチェックをし、職員が情報を共有している。また個人の状態に応じてスプーンの使用・刻み・ミキサー食と調理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯みがきの声掛け・口腔ケアを行っています。希望者には訪問歯科医に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体状態に合わせて出来るだけトイレでの排泄を促し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度の運動や歩行訓練を日々行い自然排便を促している。水分摂取量の確保・腹部のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決まっているが、希望がある利用者に対していつでも入浴できるようにしている。また足浴も毎日行っている。入浴拒否をされる方にたいしては、声掛けの工夫をしたり機嫌やタイミングを見計らい対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムづくりをし、ゆったりと休息・安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース毎に整理し、職員常に内容を把握できるようにしている。服薬確認・介助に気を配り症状の変化が見られた時には速やかに医師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にあった趣味・楽しみ・役割を見つけている。また張りのある生活が送れ、必要とされる喜びが感じられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出支援を行っている。初詣・ビッグひな祭り・花見・バラ園見学・阿波踊り・菊人形見物等。日々要望に応じて散歩・ドライブを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理しているが、本人所持の場合には家族様と相談している。預り金の使用状況を毎月出納帳のコピーを家族様に送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じ柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や廊下に季節感のある飾り・写真・作品を掲示し明るく楽しくなる雰囲気づくりをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを見たり、ソファで利用者同士でゆったりと話し談笑している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるように、寝具・家具等慣れ親しんだ物を自由に持ち込んで頂けるよう勧めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂場等手すりを取り付けバリアフリーはもとより、各部屋に写真入りの表札・トイレの表示を分かりやすく掲示し、自身で分かりやすくしている。		